

【総理研課題】

マルチモーダル観測を用いた侵略的外来種のモニタリングシステムの開発 (R6-8)

富士山科学研究所

背景・目的

生物多様性保全

現状

侵略的外来種の侵入・繁茂が県内各地で発生、外来生物法改正により特定外来生物の防除は県の責務

対応

侵入状況に基づく外来種対策が求められ、その効率的実施に外来種の対策優先順位のリスト化と防除のための行動計画の立案が急務

課題

様々な生育地に侵入する複数の外来種の侵入状況把握は重要な課題



目的

多様な観測手法を利用したマルチモーダル観測により、侵略的外来種のモニタリングシステムを開発



研究内容

R6 R7 R8

①マルチモーダル観測体制の構築: 各観測手法の導入・開発 (R6-R7) → 試験運用・改修 (R7-R8)

②侵入状況の把握と将来予測: データの統合・処理の自動化 (R6-R7) → 試験運用・改修 (R7-R8)

③対策優先順位と行動計画の立案: 資料収集 (R6-R7) → 対策優先順位と行動計画の立案 (R7-R8)

期待される成果

外来種対策のモニタリング基盤の構築

- 1. 侵入の早期発見の実現
- 2. 多様な主体が参画するモニタリングで課題解決の推進

